

資料 7

公益社団法人日本騒音制御工学会

平成24年度 事業報告

平成24年4月1日から平成25年3月31日

I. 一般的事項

1. 会員現況

会員種別	平成24年度		
	2012. 4. 1 現在数 (A)	2013. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)
名誉会員	16	19	3
正会員	964	917	-47
学生会員	18	13	-5
賛助会員	103社 (115口)	101社 (113口)	-2社 (-2口)
団体会員A	0社 (0口)	0社 (0口)	0社 (0口)
団体会員B	13社 (13口)	10社 (10口)	-3社 (-3口)
団体会員C	135社 (135口)	142社 (142口)	7社 (7口)

2. 規則等の改正

- ・ 倫理綱領の改正（平成24年12月20日施行）
- ・ ピアレビュー倫理規定の改正（平成24年12月20日施行）
- ・ 個人情報保護方針の改正（平成24年12月20日施行）
- ・ 名誉会員推薦規程の改正（平成24年12月20日施行）
- ・ 職員就業規則の改正（平成25年2月1日施行）

3. 定時総会の開催

平成24年度の定時総会は、平成24年5月30日に弘済会館4階会議室「蘭」にて開催した。出席者は550名（うち委任状提出者は475名）であった。

4. 理事会並びに部会・委員会活動

平成24年度の理事会並びに部会・委員会等の活動状況は以下の通りである。

会議名称	期 日	場 所	主な審議項目
理事会			平成24年定時総会資料及び評議員会資料について
	平成24年5月8日	工学会事務所会議室	第19期代表理事の選任について及び理事の役割分担について
	平成24年7月25日	工学会事務所会議室	第19期部会、委員会の構成員の承認について
	平成24年9月4日	日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館	平成25(2013)年春季研究発表会実行委員の選任について
	平成24年11月22日	工学会事務所会議室	学会規則改正について及び平成25(2013)年秋季研究発表会実行委員について
	平成25年1月31日	工学会事務所会議室	平成25年度定時総会について平成24年度事業計画及び予算案について及び会員規定の改訂について
	平成25年3月27日	工学会事務所会議室	平成25年度事業計画及び予算案について、学会規則等の改訂について、平成24年度の選奨及び名誉会員の推薦
評議員会	平成24年5月30日	工学会事務所会議室	学会の会勢拡大及び社会貢献について
総務部会	平成24年7月19日	工学会事務所会議室	第19期部会、委員会の構成員の承認について
	平成24年8月23日	工学会事務所会議室	平成25(2013)年春季研究発表会実行委員の選任について
	平成24年11月15日	工学会事務所会議室	学会規則改正について及び平成25(2013)年秋季研究発表会実行委員について
	平成25年1月25日	工学会事務所会議室	平成25年度定時総会について平成24年度事業計画及び予算案について及び会員規定の改訂について
	平成25年3月21日	工学会事務所会議室	平成25年度事業計画及び予算案について、学会規則等の改訂について、平成24年度の選奨及び名誉会員の推薦
事業部会	平成24年6月1日	工学会事務所会議室	第82回技術講習会準備状況第19期への引継ぎ事項について
	平成24年7月13日	工学会事務所会議室	第82回技術講習会報告第83回以降の技術講習会について
	平成24年10月5日	工学会事務所会議室	第83、84回技術講習会準備状況第85回技術講習会について
	平成25年1月11日	工学会事務所会議室	第83、84回技術講習会報告

			第85回技術講習会準備状況 平成25年度事業計画
	平成25年2月20日	工学会事務所会議室	第85回技術講習会準備状況 第86回技術講習会準備状況 平成25年度事業計画
出版部会	平成24年4月11日	工学会事務所会議室	Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズ進捗報告／今後のスケジュール確認
	平成24年6月19日	工学会事務所会議室	Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズ進捗確認 新企画に係るアイデアの検討
	平成24年8月9日	工学会事務所会議室	Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズキャラクター案検討 資格取得に関する問題集出版について検討
	平成24年10月3日	工学会事務所会議室	既出版書籍の現状確認 Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズ進捗確認
	平成24年12月6日	工学会事務所会議室	資格取得に関する問題集出版に向けての準備案 Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズ進捗確認／イラスト／レイアウト検討
	平成25年2月28日	工学会事務所会議室	Dr.Noiseの『読む』音の本シリーズキャラクター案決定 新規企画案検討
研究部会	平成24年4月23日	産総研臨海副都心センター会議室	春季、秋季研究発表会の準備状況フォロー 分科会の活動状況フォロー 規格検討委員会の新設の検討等
	平成24年7月26日	工学会事務所会議室	春季、秋季研究発表会の準備状況フォロー 分科会の活動状況フォロー 研究発表会の再編に関する検討 研究部会の内規の改正の検討等
	平成24年10月25日	工学会事務所会議室	春季、秋季研究発表会の準備状況フォロー 分科会の活動状況フォロー 研究発表会の再編に関する検討 研究部会の内規の改正の検討等
	平成25年1月17日	工学会事務所会議室	春季、秋季研究発表会の準備状況フォロー 分科会の活動状況フォロー

			研究発表会参加費(学生)の変更について 研究部会のあり方に関する検討等
平成24年秋季研究発表会実行委員会	平成24年4月18日	工学会事務所会議室	シンポジウムテーマの検討 企画セッションの検討等
	平成24年6月12日	工学会事務所会議室	プログラムの編成 シンポジウムテーマの検討 企画セッションの検討等
	平成24年9月4日	日本大学理工学部(駿河台校舎)131教室	会場準備、研究発表会準備状況の最終確認
平成25年春季研究発表会実行委員会	平成24年4月25日以降適宜	断続的にメール審議(首都圏以外の実行委員が多数のため)	会期の決定、会場候補の調査、会場下見担当者選定、会場の決定、OSテーマの提案(各分科会)、OS準備状況管理(各分科会)、プログラム編成
	平成24年6月24日	国立オリンピック記念青少年総合センター	会場下見、利用申込
平成25年秋季研究発表会実行委員会	平成24年11月30日	熊本大学工学部1号館2F共用会議室C	委員紹介、研究発表会運営チェックリストの確認、役割分担、会場設備等の確認
研究発表会企画委員会	平成24年4月24日	産総研臨海副都心センター会議室	春季、秋季研究発表会の企画、準備状況フォロー 研究会運営マニュアルの整備
	平成24年9月6日	日本大学理工学部(駿河台校舎)123小会議室	春季、秋季研究発表会の企画、準備状況フォロー 研究会運営マニュアルの整備
国際部会	平成24年7月13日	メールによる審議	Comment Draft for TSG 1の承認 INTER-NOISE 2011におけるI-INCE総会議事の確認
編集委員会	平成24年4月13日	工学会事務所会議室	特集 36巻3号~36巻6号 査読 3件
	平成24年5月14日	工学会事務所会議室	特集 36巻3号~36巻6号 査読 4件
	平成24年6月15日	工学会事務所会議室	特集 36巻4号~37巻1号 査読 4件
	平成24年7月9日	工学会事務所会議室	特集 36巻4号~37巻1号 査読 4件(5号掲載1件含む)
	平成24年8月10日	工学会事務所会議室	特集 36巻5号~37巻2号 査読 4件(5号掲載2件、6号掲載1件含む)
	平成24年9月7日	工学会事務所会議室	特集 36巻5号~37巻2号 査読 6件(5号掲載2件、6号掲載1件含む)

	平成24年10月9日	工学会事務所会議室	特集 36巻6号～37巻3号 査読 5件 (6号掲載 2件含む)
	平成24年11月12日	工学会事務所会議室	特集 36巻6号～37巻3号 査読 6件 (6号掲載 2件含む)
	平成24年12月17日	工学会事務所会議室	特集 37巻1号～37巻4号 査読 3件 (1号掲載 1件、2号掲載 1件含む)
	平成25年1月22日	工学会事務所会議室	特集 37巻1号～37巻4号 査読 4件 (1号掲載 1件、2号掲載1件含む)
	平成25年2月18日	工学会事務所会議室	特集 37巻2号～37巻5号 査読 4件 (2号掲載 1件含む)
	平成25年3月11日	工学会事務所会議室	特集 37巻2号～37巻5号 査読 4件 (2号掲載 1件含む)
広報委員会	平成24年7月10日	工学会事務所会議室	委員会の活動内容と役割分担 前期からの引継ぎ事項の確認
	平成24年9月5日	秋季研究発表会場会議室 (日大理工学部)	会員コラムについて Q&Aについて ホームページの更新について
	平成24年12月4日	東大生産技術研究所会議室	ホームページの更新について 会員コラムについて Q&Aについて 会員専用ページについて
	平成25年2月27日	工学会事務所会議室	ホームページの更新について 会員コラムについて Q&Aについて 会員専用ページの更新について
会勢拡大委員会	平成24年9月3日	工学会事務所会議室	会員会費の特例制度の導入方法、 学生対象研究発表会の試行について
	平成24年10月26日	工学会事務所会議室	荘美知子基金 (仮称) について
	平成24年12月1日	工学会事務所会議室	荘美知子基金 (仮称)、賛助会員 へのお知らせ、会員会費の特例 制度の導入に対する総会におけ る承認方法、学生対象研究発表 会の試行について
	平成25年1月15日	工学会事務所会議室	会員規定、入会退会規定案、賛 助会員へのお知らせ案、荘美知 子基金 (仮称)、学生会員を対象 とした研究発表会、会員等の統 計資料について
	平成25年3月22日	工学会事務所会議室	賛助会員へのお知らせ案、荘美 知子基金 (仮称)、学生会員を対

			象とした研究発表会について
広告拡大委員会	平成24年8月27日	工学会事務所会議室	広告募集のスケジュールについて及び会誌特集とのリンクについて
	平成25年1月14日	工学会事務所会議室	発表会論文集の広告掲載について及び会誌特集記事との連携について
社会貢献委員会	平成24年8月24日	工学会事務所会議室	社会貢献活動計画の立案、活動項目の確認
	平成24年10月16日	工学会事務所会議室	社会貢献のPR資料、項目毎の企画について
	平成24年11月26日	工学会事務所会議室	抽出項目毎の具体的実行計画について
	平成25年1月23日	工学会事務所会議室	実施イベントの絞込と、実施内容の確認
	平成25年3月28日	工学会事務所会議室	地方公共団体主催の環境月間あるいは環境学習のイベント参加について
研究功績賞選定委員会	平成25年3月5日	工学会事務所会議室	対象となる功績者の選定と審査基準の確認等
	平成25年3月21日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
環境デザイン賞選定委員会	平成25年3月5日	工学会事務所会議室	対象となる研究開発等の業績の選定と審査基準の確認等
	平成25年3月21日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
研究奨励賞選定委員会	平成25年3月5日	工学会事務所会議室	対象となる研究発表の選定と審査基準の確認等
	平成25年3月21日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
守田栄論文賞選定委員会	平成25年3月5日	工学会事務所会議室	対象となる研究論文の選定と審査基準の確認等
	平成25年3月21日	工学会事務所会議室	審査結果の確認と受賞候補者の選定
規則改正委員会	平成24年8月20日	工学会事務所会議室	規則類の改正作業と役割分担について
	平成24年9月24日	工学会事務所会議室	規則類の改正作業と見直し案について
	平成24年10月24日	工学会事務所会議室	組織要綱、役員報酬規程、積立金取扱規則及び職員就業規則の見直しについて
	平成24年11月28日	工学会事務所会議室	倫理綱領、ピアレビュー、個人情報保護他の改正案について
	平成24年12月27日	工学会事務所会議室	名誉会員推薦、組織及び運営規則、会員規程の見直しについて
	平成25年2月13日	工学会事務所会議室	優先的に取り組む改正対象規則等について

Ⅱ. 騒音及び振動に関する学術・技術の発展と普及・啓発を図り、もって国民の生活環境の保全と質の向上に寄与する事業（公益目的事業）

1. 調査・研究を行う事業

1.1 研究部会及び研究分科会等における活動

(1) 研究部会の活動

研究部会では、平成25年春季研究発表会及び平成25年秋季研究発表会の開催地を決定するとともに、その実行委員会を立ち上げ運営を委託した。研究発表会各発表会の円滑な運営、及び発表会間の運営手法の連続性の維持を目的とし、運営マニュアルを整備した。研究発表会への学生の参加を促進するため、参加費の引き下げを提案し、理事会で了承を受け、平成25年春季研究発表会から適用することとした。下記研究分科会活動を統括フォローし、その活発な活動を奨励支援した。

(2) 個々の研究分科会の活動内容

・ 遮音分科会

平成24年度は18名の委員で活動し、7回の分科会を開催した。

外部騒音が大きい状況下で、集合住宅等の窓サッシ等を対象とした内外音圧レベル差を測定するために、インパルス応答（Swept Sine法）を用いる方法について検討した。模擬的に測定用信号と暗騒音とのS/Nを変化させた複数回の実験を通して、S/Nが0dB程度の時も実務上問題ない精度の音圧レベル差が測定できること、分析時の人為的操作の影響が比較的小さい事等を明らかにした。実現場において、S/Nを把握する方法は、次年度も継続して検討する計画である。

また、天井の耐震化に伴う遮音構造の課題について検討するために、耐震金物等を扱うメーカーを招き勉強会を開催する等、今後求められる活動内容について討議した。

・ 床衝撃音分科会

分科会（委員21名、特別委員1名）の下に、日常生活での人の動作や機器の使用によって発生する衝撃力と床衝撃音の実態把握とその低減方法を検討する「実衝撃源検討WG」と、集合住宅の主要な床仕上げ工法である乾式二重床の仕様や納まりと床衝撃音低減性能の関係性を検討する「乾式二重床WG」を設置して活動している。今年度は分科会を6回、実衝撃源検討WGを2回、乾式二重床WGを7回開催した。実衝撃源WGでは、歩行系床衝撃音に対する室内履き（スリッパ）の低減効果に着目し、昨年度の実験で得られた低減効果の特徴の分析作業を進めるとともに、素足歩行とスリッパ歩行の足裏に掛かる圧力分布の実測を行った。乾式二重床WGでは、低減性能に影響する要因の既往文献からの抽出と、定性的・定量的な傾向の取り纏めを行った。また、委員を通じた実建物でのデータの収集と分析も継続して進めている。分科会では、両WGの検討内容を討議し、成果の一部を夫々1篇ずつの論文に取り纏め、平成24年秋季研究発表会で報告した。

・ 環境騒音振動行政分科会

26名の委員と環境省オブザーバー4名により構成されている。平成24年度は分科会を4回開催した。主な活動として、秋季研究発表会のテーマ「都市部における建設工事を考える」について事前に意見交換したほか、共同研究のテーマ（苦情処理事例研究、自治体担当者アンケート等）について協議した。その他、中央新幹線（リニア）と音、建設作業振動対策の手引き（環境省）、航空機騒音の測定・評価マニュアル（環境省）、騒音に関わる苦情とその解決方法（自動車

騒音、鉄道騒音、航空機騒音)、風力発電に関する環境問題、医療環境と音、騒音計の変遷、騒音の目安等、各委員が提供する話題をもとに自由な意見交換を行った。

・騒音伝搬分科会

地形条件や気象の影響など屋外の音響伝搬の実測・予測に関する諸問題について情報を共有し、関連する国際規格などについて意見を集約することを主目的とする本分科会は、今年度より主査と二名の幹事が交代し新体制となるとともに新たに二名の委員を迎え総勢22名で活動を行った。今年度は3回の分科会を開催し、春季発表会で担当するオーガナイズドセッションのテーマ選定とその準備作業を中心に行った。セッションのテーマを『音環境評価のための屋外伝搬音長期計測』とし、気象影響など季節的な変化による測定の不確かさを念頭に置いた様々な音源に対する長期計測（モニタリング）を横断的に眺めることにより今後の屋外音響の計測手法について考える場となるよう計画した。また、若手中心の委員により応募した科研費の基盤研究（B）『防災音声放送の聞こえにくさを「見せる化」するハザードマップの推計手法』が採択され、3ヶ年の初年度として研究を開始し、具体的な機器の選定、様々な気象条件のデータを取得するための長期計測手法について検討を行った。

・低周波音分科会

平成24年度は、計3回の分科会を開催した。第1回(通算第84回)は、平成24年7月10日(火)に東京大学生産技術研究所にて開催した。討議内容(話題提供者)は①低周波性騒音の可聴性に関する聴感実験(東大生研、坂本慎一氏)、②作業パフォーマンスに及ぼす低周波音の影響(日大、松田 礼氏)、③低周波音と振動の国際会議(ILFN)2012報告(安衛研、高橋幸雄氏)である。また、同研究所内の環境風洞実験室及び低周波音実験室の施設見学を行った。第2回(通算第85回)は、平成24年10月23日(火)に鉄道総研国立研究所にて開催した。討議内容(同)は①低周波音による生理反応と人間への影響(元・放送大学、山田伸志氏)、②インターノイズ2012報告(産総研、上田麻理氏、小林理研、土肥哲也氏)、その他、今後の分科会活動についての意見交換及び所内の施設見学を行った。第3回(通算86回)は、平成25年3月6日(水)に学会会議室にて開催した。討議内容(同)は①「平成23年度風力発電施設の騒音/低周波音に関する検討調査業務報告書」概要報告(芝浦工大、塩田正純氏)、②千葉県公害審査会の依頼による低周波音測定事例(千葉県環境研、石橋雅之氏)である。いずれも活発な議論が行われた。

・アクティブコントロール分科会

今年度の第1回(通算第26回)分科会は7月10日(火)にキャンパスプラザ京都において開催し、近畿大学の西垣勉先生に「膜状及び平板状スピーカを用いた壁面透過騒音のアクティブ吸音」という内容でご講演いただいた。また、主査の梶川より「PALを用いたANCの検討ならびにANCの主観評価について」という内容で話題提供を行った。10数名の分科会委員による活発な議論が行われた。また、1月28日(月)に関西大学千里山キャンパスにおいて、第2回(通算第27回)分科会を開催した。この分科会では主にアクティブノイズコントロールにおける信号処理技術に関して、The University of AucklandのProf. Waleed H. Abdulla、電気通信大学のProf. Muhammad T. Akhtarならびに関西大学の三好誠司先生の3人の御講演いただき、委員及び学生も含めて30数名が参加し、活発な議論が行われた。

・音環境デザイン分科会

音環境の「未来」を見据え、「今」何をなすべきかを、「過去」を省察してゆくことで広く社会に提起することが本分科会の使命である。平成24年度の分科会では、「学会としてのノイズポ

リシーの構築」、「住民にわかりやすい評価指標」について議論を進める方針とした。

2012年度は会合を計4回開催した。活動方針に従って「ノイズポリシー」、「住民にわかりやすい評価指標」についての議論も深めてきた。そのうちの1回は、石田委員に話題提供を依頼して議論した。また、平成25年春季研究発表会でオーガナイズを担当することから、それに向けての話し合いも大きな部分を占めた。

今後は、他の委員からも話題提供を依頼する。それらから意見集約を行っていく。政策やマネジメントといった視点を社会にアピールできる「ノイズポリシー」を示すような活動を、学会内の合意形成を計りつつ具体化させる予定である。

・環境振動評価分科会

環境振動評価に係る最新情報の共有と整理、それに基づく意見交換、委員間の共同研究の推進などを目的として、年4回の分科会を開催した。今年度の主な活動は、以下の通りである。まず、4月に実施された平成24年度春季研究発表会でオーガナイズドセッションを担当し、環境振動評価に係る現状と課題、及び測定や評価の課題に対する検討状況に関する話題提供を行った。そのうち、家屋内部で住民等が暴露されている振動特性などのデータを収集するため、工場・事業場、建設作業、道路交通及び鉄道を対象として整備した「振動測定マニュアル（案）」を、8月より分科会ホームページにおいて公開した。これまでに、160を超えるダウンロード実績がある。また、外部振動源による家屋内外での振動の実態把握などを目的とし、環境省の協力を受け提供された建設作業振動測定データの分析を進めている。

・道路交通振動予測式作成分科会

当分科会はH24年度に4回開催され、道路交通振動予測式を作成するための方法論やイメージを討議した。その中で、アンケートWG、切土・盛土WG、高架橋WGの3つのWGとして活動している。アンケートWGは、現在、INCE/Jの分科会HPを利用してアンケートを回収しているとともに、地方自治体の環境部局にも環境省からダイレクトメールで要請している。高架橋WGでは、NEXCOの協力のもとに圏央道の高架橋において大規模振動調査を実施した。走行荷重による振動が、上部工・下部工・地盤にどのように伝搬しているかを検討するために、180ch程度の同時計測を行った。現在、このデータを分析中であり、また、FEMによる非定常応答解析も進めている。

・設備機器発生音測定法分科会

平成24年度は9名の委員で活動を行い、4回の分科会を開催した。主な活動として、春季研究発表会で担当するオーガナイズドセッションのテーマの選定と、発表予定者の調整を行なった。セッションのテーマを「設備機器発生音の低減対策」とし、各種建築物の室内静ひつ性能の向上により、設備機器発生音の低減対策においても新たな対応が求められている現状に鑑み、設備機器発生音の低減対策の現状を広く集め、課題を討論する場とすることにした。また、今後の活動方針について討議し、当面は機械式駐車場の発生音に関して検討を行なうこととした。委員各自が測定データを持ち寄り、測定方法や発生音の評価の仕方について検討している。

・社会調査データアーカイブ分科会

2011年度鹿島学術振興財団の研究助成を受けた研究課題（日本における交通騒音社会調査データアーカイブの設立、及びデータの二次分析を通じた騒音施策のための科学的基盤の提示）に分科会の主要メンバーが参画している。このことから、平成24年度は、騒音影響に関する社会調査のデータアーカイブを用い、騒音に対する不快感への構造方程式モデルへの適用の検討、日本における代表的な交通騒音の暴露反応関係を分析し、秋季研究発表会、Internoise2012、

音響学会の秋季研究発表会や騒音・振動研究会にて報告した。また、11月には、アジアのデータアーカイブ設立に向け、ソウル国立大学のHong博士を招聘し、データアーカイブの概要、二次分析例、他国のデータの収集予定、スケジュール案等について協議した。その結果、同大学で所有している調査データ提供に関しては承諾が得られたことから、2014年4月を目処に具体的なプロセスを決めていくことにした。さらに、ISO 1996 part1での改定に伴い、日本における交通騒音の暴露反応関係を改定ワーキング(WG45)に提供するとともに、追加の分析などを協力した。

・高周波音検討分科会

当分科会は、10 kHzを超える高周波音を含む騒音の計測や評価に係る問題を調査研究すると共に、その解決に向けた検討を行う場として2009年5月に発足した。過去2ヶ年の活動報告として、2012年春季研究発表会で、高周波音が音の評価に与える影響の調査、新幹線鉄道・在来鉄道の鉄道曲線部における高周波音の発生状況調査及び発生要因の解明調査の結果を報告した。引き続き、高周波音が人の評価に与える影響を調査したが、とくに実験室の被験者試験で確認された「高周波音による不快感の増加」が実際の鉄道沿線でも確認できるかを目的とし、その準備作業を進めた。

1.2国内外の規格作成等に係る活動

平成24年度は国内外における規格作成について具体的な活動はなかった。

1.3受託調査研究業務の実施

騒音・振動制御に係る業務を受託し、騒音・振動技術の発展に努めた。平成24年度の受託調査研究業務は以下の通りである。

(1) 風力発電等による低周波音の人への影響評価に関する研究

委 託 先：千葉工業大学

実施期間：平成24年度(研究自体は平成22年度から平成24年度)

概 要：低周波数成分を含む風車騒音の影響を科学的に調べることを目的として、風車騒音の実測調査、風力発電施設周辺の住民を対象とした社会反応調査、低周波数成分を含む騒音に対する人間の生理・心理的反応を調べるための聴感評価実験、及び内外の関連研究並びに行政的対応に関する資料の収集・整理を行った。

(2) 平成24年度騒音振動評価手法等の検討業務

委 託 先：環境省

実施期間：平成24年8月13日から平成25年3月22日

概 要：今後、騒音規制法、振動規制法の法体系全般にわたる見直しについて検討を進める際の準備として、現状において騒音規制法と振動規制法がそれぞれ抱える様々な課題を抽出し今後の検討の方向性等を整理・提案することを目的とする。

実施方式：検討委員会審議方式

検討委員(敬称略)：塩田正純(芝浦工業大学)、末岡伸一(末岡技術士事務所)、今泉博之(産総研)、沖山文敏((株)オオバ)、久保祥三(福岡市)、新美育文(明治大学)、平松友孝((株)音・環境研究所)、松本泰尚(埼玉大学)、鴨志田均(川崎市環境総合研究所)、オブザーバー橘秀樹(千葉工業大学)

(3) 福岡空港に係る環境保全検討業務

委託先：福岡市

実施期間：平成24年10月3日から平成25年3月29日

概要：福岡空港周辺における環境保全（主に航空機騒音）の現状を調査し、空港が周辺地域に与える騒音の影響を把握すると共に、今後の空港整備に伴う騒音の影響の悪化を防止するための施策の方向性を検討した。

実施方式：検討委員会審議方式

検討委員（敬称略）：尾本章（九州大学大学院）、井上保雄（(株)アイ・エヌ・シー・エンジニアリング）、加来治郎（(財)小林理研）、後藤恭一（(財)空港環境整備協会）、篠原直明（(財)成田国際空港振興協会）、藤本一壽（九州大学大学院）、松島貢（千葉市環境保全部）、森長誠（(財)防衛施設周辺整備協会）

2. 研究発表会や講習会等を行う事業

2.1 研究発表会の開催

(1) 春季研究発表会

平成24年4月24日に産業技術総合研究所臨海副都心センターを会場として開催し、講演論文集を刊行した。発表件数は38件、参加者実数は213名であった。なお、春季研究発表会はオーガナイズドセッションを取り入れた発表会形式となっており、平成24年の担当分科会と講演テーマは以下の通りである。

- ・遮音分科会：「外周壁の遮音設計のための騒音の測定・評価」
- ・高周波音分科会：「非常に高い周波数成分を含む騒音の実態とその影響」
- ・低周波音分科会：「低周波音の計測・影響・評価」
- ・環境振動評価法分科会：「環境振動評価に係る諸問題と今後の展開」

(2) 秋季研究発表会

平成24年9月5日～6日の2日間、日本大学理工学部駿河台キャンパスを会場として開催し、講演論文集を刊行した。発表件数は75件、参加者実数は303名であった。また、オーガナイズドセッションを以下の講演テーマで実施した。

- ・「子供のための音環境」

2.2 特別講演会等の開催(敬称略)

○平成24年度定時総会(平成24年5月30日開催)において、特別講演会を開催した。演題及び講演者は以下の通りである。

- ・「騒音振動行政の現状と課題」：中西正光（環境省）
- ・「学会の社会貢献とソリューション研究－経験を通しての考察と提案－」：上羽貞行（東京工業大学名誉教授）

○平成24(2012)年秋季研究発表会の1日目(平成24年9月5日)において、特別講演会を開催した。演題及び講演者は以下の通りである。

- ・「超新星の分類と宇宙進化への影響」：藤井柴麻見（日本大学理工学部）

○平成24(2012)年秋季研究発表会の1日目(平成24年9月5日)において、シンポジウム「都市部における建設工事を考える」を開催した。コーディネータは安藤啓（(株)安藤環境コンサル

タント)、司会者は横島潤紀(神奈川県環境科学センター)で、演題及び講演者は以下の通りである。

- ・「建設作業の騒音振動について」中西正光(環境省)
- ・「東京都における建設作業騒音・振動の現状と課題」門屋真希子(都環研)
- ・「都市部における建設工事を考える」宇津木淳一(大成建設(株))
- ・「建設工事に伴う騒音・振動の法的責任」大森文彦(弁護士)

2.3 技術講習会等の開催

平成24年度は技術講習会を4回開催し、騒音・振動技術の普及・向上に貢献した。実施した技術講習会は以下の通りである。

(1) 第82回技術講習会「騒音・振動技術の基礎と測定実習」

開催日：平成24年6月13日～14日

会場：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師(敬称略)：坂本慎一(東京大学生産技術研究所)、岡田恭明(名城大学)、古賀貴士(鹿島建設(株)技術研究所)、松島 貢(千葉市)、河野正秀(リオン(株))、佐藤利和(スペクトリス(株))、平田圭造((株)小野測器)

受講者数：1日目48名、2日目47名

(2) 第83回技術講習会「騒音対策の基礎と考え方」

開催日：平成24年10月19日

場所：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師(敬称略)：井上保雄((株)アイ・エヌ・シー・エンジニアリング)、渡邊敏幸((株)ブリヂストン)、古賀貴士(鹿島建設(株)技術研究所)、森 卓支(モリノイズコントロールオフィス)

受講者数：27名

(3) 第84回技術講習会「航空機騒音と自動車騒音の測定・評価マニュアルと測定方法の解説」

開催日：平成24年12月3日～4日

場所：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 中セミナー室

講師(敬称略)：田木一也(環境省)、山田一郎(空港環境整備協会)、福島昭則((株)ニューズ環境設計)、篠原直明(成田国際空港振興協会)、稲井康弘(環境省)、山本貢平((財)小林理学研究所)、石川賢一((株)オリエンタルコンサルタンツ)、野口英司((株)オリエンタルコンサルタンツ)

受講者数：1日目18名、2日目24名

(4) 第85回技術講習会「騒音・振動の苦情処理」

開催日：平成25年3月4日

会場：東京大学生産技術研究所 総合研究実験棟 大会議室

講師(敬称略)：桑原厚(環境省)、荒木真一(公害等調整委員会)、門屋真希子(都環研)、沖山文敏((株)オオバ)、平松友孝((株)音・環境研究所)、落合博明((財)小林理学研究所)

受講者数：76名

(5)社会貢献活動の状況

千代田区主催の環境月間（6月）イベント（全世代対象）に参加すべく手続を進めた。並行してイベントの実施内容、展示物等について準備した。

愛知県主催の夏休み環境学習講座（8月、主に小中学生対象）への参加手続を進めた。

橋本総業主催のHAT建設設備セミナーに講師（町田低周波音分科会主査他）を派遣、低周波音関連の講演を行った（平成25年2月20日）

2.4展示会の開催

平成24(2012)年秋季研究発表会（平成24年9月5日～6日）において、カタログ・材料・機器等の展示会を開催した。

3. 会誌や学術書等の刊行を行う事業

3.1 会誌の刊行

「騒音制御」36巻2号から37巻1号の6冊を隔月1日に発行し、会員に配布した。主な内容は次の通りである。

巻		36					37	計
号		2	3	4	5	6	1	
本文ページ		86	36	81	56	72	48	379
主な記事・論文	巻頭言						1	1
	総論	4	1	1	1	4	2	13
	解説	6 (1)	6 (1)	6 (1)	5 (1)	10 (2)	16 (4)	49 (10)
	技術資料	29 (5)	25 (4)	54 (10)	25 (5)	25 (5)	11 (2)	169 (31)
	会議報告	16 (5)						16 (5)
	新会長の挨拶			1				1
	エッセイ	5 (1)			2 (1)			7 (2)
	投稿－論文	8 (1)			19 (2)	17 (2)		44 (5)
	投稿－技術報告	14 (2)					5 (1)	19 (3)
	研究部会報告					9 (1)		9 (1)
	投稿規定、執筆要領						8	8
	情報コーナー	2	2	2	2	2	2	12
	工学会報告	1	1	16	1	2	2	23
	第36巻総目次					2		2
編集後記	1	1	1	1	1	1	6	
工学会通信	14	6	8	10	6	6	50	
広告	7	8	8	8	8	8	47	
発行部数	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	9,000	

注1) カッコ内の数値は編数

2) 工学会通信の内容は、研究発表会の講演募集やプログラム、講習会開催案内、その他周知記事である。

また、各号の特集タイトルは以下の通りである。

36巻2号「地域性と音ー地域性の違いから社会反応の違いを読み解くー」

36巻3号「気象条件を考慮した騒音伝搬予測」

36巻4号「“吸音”に関する最近の動向」

36巻5号「交通機関のキャビンの音・振動環境」

36巻6号「防音壁に要求される性能と実用的な取り組み」

37巻1号「動物の音・振動に対する応答」

昨年に引き続き、ツイッターを利用して、特集記事の情報を広く一般に発信した。

3.2出版事業

一般の読者層や理系の高校生などを対象にした、様々な音や騒音に関するやさしい解説本シリーズ-Dr. Noiseの『読む』音の本ーの出版に向けて編集作業を行った。「騒音の基礎」「振動の基礎」「音のバリエーション」「低周波音のはなし」「航空機騒音のはなし」の5冊について執筆／編集を進めた。

4. 国内外の学協会等と交流する事業

(1) 国際会議の開催・準備等

平成26年に奈良で開催されるICBEN 2014の準備等に協力した。

(2) 国際学会への協力

国際騒音制御工学会(I-INCE)加盟団体として、国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会に田中ひかり理事、横田考俊理事、森長誠理事を派遣した。

(3) 国内の他学協会等からの共催等の依頼

日本音響学会、日本機械学会、自動車技術会が開催する講習会、シンポジウム等に協賛した。

5. 業績表彰に関する事業

(1) 研究功績賞

騒音、振動、音・振動環境に関し、一連の研究あるいは著書の著作又は編纂の業績により、学術及び技術の進展に大きく貢献し、その功績が顕著である名誉会員又は正会員に贈呈される賞で、平成24年度の研究功績賞は、以下の3名に決定した。なお、賞の贈呈は平成25年度の定時総会の際に行う。

平成24年度研究功績賞受賞者（敬称略）

○古賀正輔「耐候性吸音材の実用化に関する一連の研究業績」

○山本照二「環境行政及び音響関連規格等に関する一連の研究業績」

○吉原 勲「プラントの実務的騒音制御手法に関する一連の研究業績」

(2) 守田栄論文賞

騒音、振動、音・振動環境に関し、学術及び技術の進展に貢献するところが大きい研究業績を学会誌に発表した名誉会員、正会員又は学生会員に贈呈される賞で、平成24年度の守田栄論文賞は、以下の論文に決定した。なお、賞の贈呈は平成25年度の定時総会の際に行う。

平成24年度守田栄論文賞受賞者（敬称略）

- 田中ひかり、増田潔（大成建設(株)建築技術研究所）
「鉄骨造建物の重量床衝撃音遮断性能に関する検討」
ースラブの振動特性とFEMによる予測ー

(3) 環境デザイン賞

都市環境、住環境、作業環境、車室内環境等の快適性向上のための計画、実施事例、研究、技術開発などの音・振動環境の改善に優れた業績を挙げた法人、グループ又は個人に贈呈される賞で、平成24年度の環境デザイン賞は、以下の3法人に決定した。なお、賞の贈呈は平成25年度の定時総会の際に行う。

平成24年度環境デザイン賞受賞者（敬称略）

- 株式会社大林組
「発破低周波音消音器「ブラストサイレンサー」の開発」
- 鹿島建設株式会社
天井に反射面をもつオープンプランオフィスの音響設計
「鹿島技術研究所研究本館」
- 西日本旅客鉄道株式会社
「緩衝工内吸音処理による新幹線鉄道トンネル抗口騒音の低減」

(4) 研究奨励賞

騒音、振動、音・振動環境に関する学術及び技術の奨励のため、研究発表会で優秀な研究を講演発表を行った者で、有為と認められる新進の研究者、技術者に贈呈される賞で、平成24年度の研究奨励賞は、以下の6名に決定した。なお、賞の贈呈は平成25年度の定時総会の際に行う。

平成24年度研究奨励賞受賞者（敬称略）

- 川口二俊（公益財団法人鉄道総合技術研究所）
「鉄道の曲線軌道における高周波数域のレール振動特性」
- 白幡桂子（新潟大学）
「埋込型ヘルムホルツ共鳴器とネック延長部品を付加した孔あき板の吸音特性について」
- 内野敬太（株式会社アイ・エヌ・シー・エンジニアリング）
「ダクト系消音器の音響・空力性能試験装置」
- 小林知尋（千葉工業大学）
「風車騒音に含まれるSwish音の物理特性について」
- 西村昌也（ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社）
「線路上空構造物が鉄道沿線騒音に与える影響」
- 太田達也（株式会社ニューズ環境設計）
「新幹線走行時の地盤振動波形を用いた走行速度の測定」

Ⅲ. 騒音及び振動に関する認定技士の資格認定を行う事業（その他の事業（相互扶助等事業））

騒音または振動の分野における学術技術に関して高度の専門的能力を有する方に対し、資格制度に基づき、公益社団法人日本騒音制御工学会認定技士の資格認定を行うとともに、活動の強化を図っている。平成24年度は新たな認定技士の申請はなかった。